

# 動物考古学の方法

西 本 豊 弘

---

## はじめに

1. 現生標本の作成方法
2. 動物遺体の同定
3. 出土内容の記載

## 4. 動物遺体の採集方法

5. 動物遺体の解釈の問題

おわりに

---

## 論文要旨

日本では、動物考古学の方法について、やさしく説明したものはない。そこで、ここでは、これから骨の分類を試みようとする学生や研究者を対象として、動物遺体の分類方法とその注意事項をまとめておくこととした。

まず、動物遺体の同定の基本となる現生標本の作り方を紹介した。次に、部位・種名・雌雄・年齢の同定方法および、骨の大きさ・骨の病変・骨の損傷・加工の有無など観察すべき項目をあげた。そして、報告の記載をする時に必要な、骨の左右や存在する部分の記録など、データの表示方法にも触れた。最後に同定の方法や採集方法が、動物遺体の解釈に大きく影響することを指摘した。

動物考古学の基礎は、骨の同定である。動物の骨を同定する時に必要な「道具」は、現生標本である。それと同時に、その動物が生まれてから老成するまでの骨の形についての「イメージ」を持つことが重要である。そのイメージがきちんと形成されていないと同定ミスが起こることになる。同定ミスは、自分が気がつかずに起こることが多い。同定ミスを防ぐには、自分が確信を持てないものは同定しないという謙虚さが必要である。その点から言えば、動物考古学にとって、もっとも要求されることは、すべての学問と同様に、事実に対する謙虚さである。そして、動物考古学の遂行には、動物考古学者の中だけではなく、他の考古学者との協力が不可欠である。共同研究の上に成り立っているのが動物考古学であると言える。

---